

新城市民病院での研修を終えて

豊橋市民病院 初期臨床研修医

新城市民病院で1ヶ月間は本当に有意義な時間を過ごすことができました。総合診療科での初診外来や救急対応はじっくりと時間をかけて診察することができ、所見を一つ一つしっかりと取ったり、問診もゆっくりと患者さんやご家族のお話を聞くことができ、医師として本来あるべき姿！?(時と状況があるので一概には言えませんが...)を再確認できたと思います。つい画像検査や採血検査にとらわれがちではありましたが、一つ一つ取捨選択して必要なものを行っていくというのはとても大事なことになってくると思います。医師として1年半ばかり経とうとしていますが、多面的な見方を学べました。また日々の振り返りや毎朝の勉強会など「地域・僻地だから勉強しない」というわけではなく、積極的に新しいことに取り組んでいくことの大切さも実感しました。

また作手診療所の見学も考えさせられる時間でした。山間の診療所ですが、多くの患者さんが通っており、何よりも診察される先生方が皆さん笑顔で対応されていたことが印象的でした。話しやすい環境を作り出し、心配事や今患者さんがどのようなことに困っているのか傾聴する姿勢の大切さをひしひしと実感することができました。また同行させて頂いた名郷先生の計らいで、自身の恩師が勤める作手小学校を見学させて頂く機会も忘れられません。医療を含めた地域全体の今後の方向性についても考えさせられる良い機会でした。それと関連して地域医療(僻地医療)に関してプライマリ・ケアとして ACCCA(Accessibility Comprehensiveness Coordination Continuty Accoutability)が地域医療に求められていますが、実際に新城市民病院での研修を経て、ACCCA がきちんと成り立っているからこそ地域医療が潤滑に回っていることも実感として持つことができました。学生時代に座学で学んだりぼんやりとしていることも多かったのですが、実際に働きだして現場に出て、さらにこうやって地域医療で研修させて頂いたからこそ、様々な点を考えさせられる場面に出会い、医学的な面だけではなく社会的な面においても多くの経験をさせて頂くことができました。

最後になりましたが、研修させて頂いた新城市民病院の皆様、特に総合診療科の先生方、外来の看護師さんを初めスタッフの皆様はじめ多くの方々にお世話になりました。拙い点ばかりではありましたが、患者さんに接する中でいろんなことを吸収することができ、素晴らしい1ヶ月を過ごすことができました。この場を借りて改めて御礼申し上げます。狭い世界ですので、またご縁があることもあるかと思えます。その節はどうぞ宜しくお願い致します。